

井戸ばた会議

2月号の★募集テーマから

ケアマネの実習 2年目の状況

実習を受けても仕事につかないという実習生について投稿している人が多かったのに驚きました。それはそうですね。同行実習が始まって2年。導入は画期的といわれましたが、課題が多いと感じます。実務に就くつもりがなかった実習生に、ケアマネをやる気にさせた主任さん。その力量に頭が下がります。

実務につかない実習生 実習を経て心変わり

佐賀県 古田香澄 50代

事業所のケアマネは私を入れて2名。今年度受け入れた実習生も2名で、マンツーマンで対応できました。初日に実務に就くつもりがあるかを聞き、個別に研修のカリキュラムを決めています。実務に就く人は、実践中心の内容に。3日間に3件同行訪問し、利用者のアセスメントやプラン作成を行

います。就かない人は見学メインで、ケアマネジメントプロセスや業務の流れを学んでもらう内容にしています。サービス担当者会議には、どちらも参加します。訪問する利用者は、認知症ではない人を選んでいきます。アセスメントで何を聞くのか、どうすればコミュニケーションがスムーズに取れるのかを見せるためです。難しいケースに直面することも知ってほしいので、難病の人やターミ

ナルの人にもお願いしています。実習生は、リハ職の男性と介護職の女性で、ともに30代でした。リハ職の男性は回復期病院に勤務、退院支援でケアマネと連携する機会が多く、業務に生かすため資格を取得したそうです。サービス担当者会議を見学した後、「本人の生活を支えるとはどういうことか、具体的にイメージできた。これまでの経験を生かし、ケアマネジャーもやってみたい」と言ってくれました。

投稿用紙のご利用（p.49、もしくはホームページから投稿）で、掲載された方には、**1,000円の図書カード**を差し上げます。

地域はケアマネの数が少ないのが課題。関心を持ってくれることは、とてもありがたいです。4市の広域連合のケアマネ連絡会に所属していますが、高齢者約9万人に対して、実務についているケアマネは300人ほど。退職する人も多く、地域包括も居宅も常に求人を出しています。そんな状況ですから、次の世代を育てていきたいです。

年配の実習生 教える側は恐縮

東京都 中井紫鶴 40代

今年度は4名の実習生を受け入れました。うち3名は、デイサービスや訪問介護事業所の管理者です。3人とも、併設の居宅でケアマネを兼任するために資格を取得されました。30代、40代、60代と年齢もばらばら。60代の人はサラリーマンを経て、業界へ。知識が豊富でコミュニケーション能力も高いので、教える側はやや緊張。若い人の方が素直で、学んだことを理解するのも早いかなと感じました。

もう一つ、実習生には、参加の連絡を早めにしてほしいです。受け入れの期間が終了する2週間くらい前に、実習を受けたいので日程調整を

してほしいという人もいました。なんとか調整しましたが、事業所としては負担が大きいです。

ならない人も ケアマネを知る機会に

東京都 D・K 40代

実習生は、居宅のケアマネジャーとして働く人ばかりではありません。今年度は、デイの管理者や福祉用具専門相談員、施設ケアマネを目指す介護職などがいました。管理者と相談員に、なぜケアマネを受けたのか聞くと「ケアマネが選んでくれる事業者になるには、ケアマネを目指してみるのが一番いいと思った」という答えが。実務に就く予定がない実習生にも、ケアマネは普段、こういうことをしていると知ってもらいたい。今

後の仕事にぜひ生かしてほしいと思い、ケアマネジメントの基本を学べ、かつ業務の流れもつかめるカリキュラムにしました。

同行訪問し、アセスメントやプランの作成について学びながら、空き時間に実務研修のテキストをおさらい。見てきたことと、学んできたことを照らし合わせることで、より深い理解へつながると考えました。デイの管理者からは「書類仕事をしている人というイメージが変わった」、介護職からは「利用者の表情や仕草まで気を配り、部屋の状況も確認する。ケアマネって生活を支える仕事なんだと分かった」という感想を頂き、2人とも、ケアマネとの連携に必ずこの経験を生かすと約束してくれました。



教える側が
かしこまり...